

平成 2 2 年 度

審 査 意 見 書

石 卷 市 病 院 事 業 会 計 決 算

石 卷 市 監 査 委 員

石 監 第 1 0 号  
平成 2 3 年 8 月 1 7 日

石巻市長 亀 山 紘 殿

石巻市監査委員 柴 山 耕 一

石巻市監査委員 矢 川 昌 宏

石巻市監査委員 阿 部 欽一郎

決算審査意見の提出について

地方公営企業法（昭和 2 7 年法律第 2 9 2 号）第 3 0 条第 2 項の規定により審査に付された平成 2 2 年度石巻市病院事業会計決算を審査したので、次のとおり意見を提出します。



# 目 次

	ページ
平成22年度石巻市病院事業会計決算審査意見 .....	1
はじめに .....	1
第1 審査の対象 .....	2
第2 審査の期間 .....	2
第3 審査の方法 .....	2
第4 審査の結果 .....	2
1 業務実績 .....	3
2 予算の執行状況 .....	4
(1) 収益的収入及び支出 .....	4
(2) 資本的収入及び支出 .....	5
(3) 予算に定められた限度条項等 .....	6
3 経営成績 .....	7
(1) 経営収支の状況 .....	7
(2) 経営分析 .....	9
(3) 財政状態 .....	10
4 病院別の経営状況 .....	13
(1) 石巻市立病院 .....	13
(2) 石巻市立雄勝病院 .....	20
(3) 石巻市立牡鹿病院 .....	27
む す び .....	34
参 考 資 料 .....	37

凡

例

1 比率は、原則として表中の数値により算出（表示数値未満を四捨五入）して表示した。

なお、構成比率は、原則として表中の数値により算出し、表示数値未満を四捨五入して表示しているため、内訳の合計数が100とならない場合がある。

2 「執行率」は予算現額に対する決算額の割合である。

3 各表中の符号の用法は、次のとおりである。

「0」、「0.0」----- 該当数値はあるが（0を含む。）、単位未満のもの

「△」----- 減数又は負数

「-」----- 該当数値がないもの、算出不能又は数値として表示することが不適当なもの

## 平成 22 年度石巻市病院事業会計決算審査意見

### は じ め に

#### ～ 審査に当たって ～

平成 22 年度石巻市病院事業会計決算の審査に当たっては、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災が、石巻市の病院事業に甚大な被害をもたらし、特に石巻市立病院と石巻市立雄勝病院については、診療ができない状況に追い込まれたことに考慮する必要がある。

特に、病院事業の決算審査に当たっては、業務実績や予算の執行状況、経営成績などにおいて、前年度実績との比較増減について検討することになるが、比較検討の前提となる各種データのベースになる診療日数が、石巻市立病院と石巻市立雄勝病院においては、前年度と異なることに留意する必要がある。厳密な意味で前年度との比較を行うためには、平成 22 年度において通年にわたって診療業務が行われたと仮定して、各種データを統計的に推察し、その上で比較検討を行うべきであるが、今回の震災による被災が年度末近くの 3 月中旬であった事実に鑑み、実際のデータに基づき比較検討を行うことにしたものである。

#### 比 較 診 療 日 数 表

区 分		診 療 日 数	
		22 年度	21 年度
石巻市立 病 院	入院	348 日 (平成 23 年 3 月 14 日までの毎日)	365 日
	外来	230 日 (平成 23 年 3 月 11 日までの平日)	242 日
石巻市立 雄勝病院	入院	345 日 (平成 23 年 3 月 11 日までの毎日)	石巻市立病院と同じ
	外来	230 日 (平成 23 年 3 月 11 日までの平日)	同 上
石巻市立 牡鹿病院	入院	365 日 (平成 23 年 3 月 31 日までの毎日)	同 上
	外来	243 日 (平成 23 年 3 月 31 日までの平日)	同 上

※ 22 年度の石巻市立病院における入院分の診療日数は、震災発生後、患者の他医療機関への移送が完了した 3 月 14 日までのもの。

## 第1 審査の対象

平成22年度石巻市病院事業会計決算、証書類、事業報告書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書

## 第2 審査の期間

平成23年5月31日から同年8月4日まで

## 第3 審査の方法

決算の審査に当たっては、石巻市長から審査に付された平成22年度石巻市病院事業会計決算、事業報告書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書が関係法令に準拠して調製され、経営成績及び財政状態を適正に表示しているかについて行い、病院事業の経済性を発揮するとともに、公共の福祉を増進するよう運営されているかについて、経営内容を分析した。

なお、審査手続については、決算書類及び附属書類について、震災で失われた書類を除く可能な限りの関係諸帳簿及び証拠書類と照合点検を行い、必要に応じ病院局からの説明を聴取し、決算の正確性、予算執行の適確性、収入支出の合法性、財政運営及び財産管理の実績などに主眼をおいて実施した。

## 第4 審査の結果

審査に付された平成22年度石巻市病院事業会計決算、事業報告書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書は、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成されており、それらの計数は正確で適法であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認めた。

審査結果の概要は、次に記述するとおりである。

## 1 業務実績

業務実績は、次のとおりである。

平成 22 年度は、業務の予定量を病床数 271 床、年延入院患者数 7 万 4,927 人、年延外来患者数 12 万 5,016 人と定め業務を執行した。

病院事業全体での業務実績は、病床数が予定量と同床の 271 床、年延入院患者数が 7 万 2,184 人で、予定量を 2,743 人下回っている。また、年延外来患者数は 11 万 8,442 人で、予定量を 6,574 人下回っており、1 日平均入院患者数は 207.1 人、1 日平均外来患者数は 507.8 人で、病床利用率は 76.3%となっている。

年延入院患者数は前年度と比較し 1,562 人 (2.2%) 増加しているが、これは石巻市立雄勝病院で 596 人減少したものの、石巻市立病院で 2,046 人、石巻市立牡鹿病院で 112 人が増加したためである。

年延外来患者数は前年度と比較し 1,613 人 (1.3%) 減少しているが、これは石巻市立牡鹿病院で 713 人増加したものの、石巻市立病院で 425 人、石巻市立雄勝病院で 1,901 人が減少したためである。

なお、石巻市立病院と石巻市立雄勝病院の患者数の減少は、東日本大震災により診療日数が減少したことなどによるものである。

比較業務実績表

区 分	病床数 (床)	年延入院 患者数 (人)	1日平均 入院患者数 (人)	病床利用率 (%)	年延外来 患者数 (人)	1日平均 外来患者数 (人)		
病院事業	22年度(A)	271	72,184	207.1	76.3	118,442	507.8	
	21年度(B)	286	70,622	193.5	67.7	120,055	496.1	
	20年度	286	69,885	191.5	66.9	117,674	484.3	
	比較増減	(A) - (B)	△ 15	1,562	13.6	8.6	△ 1,613	11.7
	増減率(%)		△ 5.2	2.2	7.0	—	△ 1.3	2.4
石巻市立 病 院	22年度(A)	206	54,724	157.3	76.3	72,577	315.6	
	21年度(B)	206	52,678	144.3	70.1	73,002	301.7	
	20年度	206	51,596	141.4	68.6	70,224	289.0	
	比較増減	(A) - (B)	0	2,046	13.0	6.2	△ 425	13.9
	増減率(%)		0.0	3.9	9.0	—	△ 0.6	4.6
石巻市立 雄勝病院	22年度(A)	40	12,427	36.0	90.1	15,271	66.4	
	21年度(B)	40	13,023	35.7	89.2	17,172	71.0	
	20年度	40	13,897	38.1	95.2	17,384	71.5	
	比較増減	(A) - (B)	0	△ 596	0.3	0.9	△ 1,901	△ 4.6
	増減率(%)		0.0	△ 4.6	0.8	—	△ 11.1	△ 6.5
石巻市立 牡鹿病院	22年度(A)	25	5,033	13.8	55.2	30,594	125.9	
	21年度(B)	40	4,921	13.5	33.7	29,881	123.5	
	20年度	40	4,392	12.0	30.1	30,066	123.7	
	比較増減	(A) - (B)	△ 15	112	0.3	21.5	713	2.4
	増減率(%)		△ 37.5	2.3	2.2	—	2.4	1.9

※ 年度別診療日数 [22年度] 入院:石巻 348 日、雄勝 345 日、牡鹿 365 日・外来:石巻、雄勝 230 日、牡鹿 243 日  
 [21年度] 入院:石巻、雄勝、牡鹿 365 日・外来:石巻、雄勝、牡鹿 242 日  
 [20年度] 入院:石巻、雄勝、牡鹿 365 日・外来:石巻、雄勝、牡鹿 243 日



## 2 予算の執行状況（消費税及び地方消費税額を含む。）

### (1) 収益的収入及び支出

収益的収入及び支出の決算状況は、次のとおりである。

収益的収入は、予算現額60億4,808万2,000円に対し、決算額は59億3,214万627円で、執行率98.1%となっており、予算現額に対し1億1,594万1,373円の収入減となっている。

決算額は前年度と比較して3億7,908万6,358円（6.8%）増加しているが、これは医業外収益で5,900万5,038円が減少したものの、医業収益で2億9,809万1,396円、特別利益で1億4,000万円が増加したためである。

一方、収益的支出は、予算現額58億7,198万7,000円に対し、決算額は56億5,197万1,283円で、執行率96.3%となっており、不用額は2億2,001万5,717円である。

決算額は前年度と比較して1億4,968万8,379円（2.7%）増加しているが、これは医業費用で7,568万9,005円、特別損失で6,991万1,329円、医業外費用で408万8,045円が増加したためである。

予備費については、全額不用額となっている。

### 収益的収支の予算決算比較

収 入

（単位：円・％）

区 分	22年度				21年度	比 較 増 減	
	予算現額	決算額(A)	予算現額に比べ 決算額の増減	執行率	決算額(B)	(A)－(B)	増減率
病院事業収益	6,048,082,000	5,932,140,627	△ 115,941,373	98.1	5,553,054,269	379,086,358	6.8
医業収益	4,812,002,000	4,699,426,410	△ 112,575,590	97.7	4,401,335,014	298,091,396	6.8
医業外収益	1,096,080,000	1,092,714,217	△ 3,365,783	99.7	1,151,719,255	△ 59,005,038	△ 5.1
特別利益	140,000,000	140,000,000	0	100.0	0	140,000,000	皆増

支 出

（単位：円・％）

区 分	22年度					21年度	比 較 増 減	
	予算現額	決算額(A)	翌年度繰越額	不用額	執行率	決算額(B)	(A)－(B)	増減率
病院事業費用	5,871,987,000	5,651,971,283	0	220,015,717	96.3	5,502,282,904	149,688,379	2.7
医業費用	5,635,466,000	5,372,763,449	0	262,702,551	95.3	5,297,074,444	75,689,005	1.4
医業外費用	226,521,000	209,296,505	0	17,224,495	92.4	205,208,460	4,088,045	2.0
特別損失	0	69,911,329	0	△ 69,911,329	—	0	69,911,329	皆増
予備費	10,000,000	0	0	10,000,000	0.0	0	0	—

## (2) 資本的収入及び支出

資本的収入及び支出の決算状況は、次のとおりである。

資本的収入は、予算現額4億2,223万7,000円に対し、決算額は3億5,569万2,676円で、執行率84.2%となっており、予算現額に対し6,654万4,324円の収入減となっている。

決算額は前年度と比較して4億213万7,529円(53.1%)減少しているが、これは他会計出資金で399万5,621円が増加したものの、主に他会計負担金で4億297万3,150円が減少したためである。

一方、資本的支出は、予算現額4億2,523万7,000円に対し、決算額は3億5,869万2,676円で、執行率84.4%となっているが、翌年度繰越額4,020万9,600円を差し引いた不用額は2,633万4,724円である。

決算額は前年度と比較して3億9,913万7,529円(52.7%)減少しているが、これは企業債償還金で699万5,621円が増加したものの、建設改良費で4億613万3,150円が減少したためである。

資本的支出の内訳は、石巻市立病院の眼科用手術装置、雄勝病院の液体酸素自動切替装置、牡鹿病院の多項目自動血球分析装置購入等に係る建設改良費9,113万6,200円、石巻市立病院建設事業等に係る企業債償還金2億6,755万6,476円である。

なお、収入及び支出の翌年度繰越額4,020万9,600円については、東日本大震災に伴う工事の中断により年度内に事業を完了することができなかった石巻市立病院感染症外来診察病棟建設事業及び雄勝病院下水道接続事業等に要するものである。

### 資本的収支の予算決算比較

収 入

(単位：円・%)

区 分	22年度				21年度	比 較 増 減	
	予算現額	決算額(A)	予算現額に比べ 決算額の増減	執行率	決算額(B)	(A) - (B)	増減率
資本的収入	422,237,000	355,692,676	△ 66,544,324	84.2	757,830,205	△ 402,137,529	△ 53.1
他 会 計 出 資 金	264,557,000	264,556,476	△ 524	100.0	260,560,855	3,995,621	1.5
他 会 計 負 担 金	157,680,000	91,136,200	△ 66,543,800	57.8	494,109,350	△ 402,973,150	△ 81.6
国庫補助金	0	0	0	—	500,000	△ 500,000	皆減
県補助金	0	0	0	—	2,660,000	△ 2,660,000	皆減

支 出

(単位：円・%)

区 分	22年度					21年度	比 較 増 減	
	予算現額	決算額(A)	翌年度繰越額	不 用 額	執行率	決算額(B)	(A) - (B)	増減率
資本的支出	425,237,000	358,692,676	40,209,600	26,334,724	84.4	757,830,205	△ 399,137,529	△ 52.7
建 設 改 良 費 用	157,680,000	91,136,200	40,209,600	26,334,200	57.8	497,269,350	△ 406,133,150	△ 81.7
企 業 債 償 還 金	267,557,000	267,556,476	0	524	100.0	260,560,855	6,995,621	2.7

**(3) 予算に定められた限度条項等**

ア 一時借入金（予算第5条関係）

一時借入金限度額 15億円 最高借入額 10億3,000万円

イ 議会の議決を経なければ流用することのできない経費（予算第6条関係）

議会の議決を経なければ流用することのできない経費である職員給与費、交際費は、予算の範囲内で執行されており、他の経費との流用は行われていない。

ウ 他会計からの補助金（予算第7条関係）

一般会計からの補助金は、予算現額4億3,444万9,000円に対して、4億3,123万7,219円を収入している。

エ たな卸資産購入限度額（予算第8条関係）

たな卸資産購入限度額 12億5,000万円 購入額 11億8,479万3,463円

### 3 経営成績

#### (1) 経営収支の状況

経営収支の状況は、次のとおりである。

収益総額 59 億 2,460 万 4,562 円に対し、費用総額 56 億 5,073 万 4,352 円で、差引き 2 億 7,387 万 210 円が当年度純利益となっており、前年度と比較して当年度純損益は 2 億 4,815 万 9,065 円増加している。

この結果、前年度繰越欠損金 79 億 461 万 8,410 円から当年度純利益を差し引いた当年度未処理欠損金は、前年度と比較して 2 億 7,387 万 210 円 (3.5%) 減少の 76 億 3,074 万 8,200 円である。

収益総額は前年度と比較して 3 億 8,033 万 432 円 (6.9%) 増加しているが、これは医業外収益で 5,880 万 3,453 円が減少したものの、医業収益で 2 億 9,913 万 3,885 円、特別利益で 1 億 4,000 万円が増加したためである。

収益総額の内訳は、医業収益 46 億 9,297 万 8,087 円 (79.2%)、医業外収益 10 億 9,162 万 6,475 円 (18.4%)、特別利益 1 億 4,000 万円 (2.4%) である。

費用総額は前年度と比較して 1 億 3,217 万 1,367 円 (2.4%) 増加しているが、これは医業外費用で 3,280 万 9,486 円が減少したものの、医業費用で 9,506 万 9,524 円、特別損失で 6,991 万 1,329 円が増加したためである。

費用総額の内訳は、医業費用 53 億 1,989 万 6,222 円 (94.1%)、医業外費用 2 億 6,092 万 6,801 円 (4.6%)、特別損失 6,991 万 1,329 円 (1.2%) である。

なお、特別損失は全額その他特別損失であり、これは東日本大震災により使用不能となった器械備品等の滅失損である。

#### 比較損益計算書

(単位：円・%)

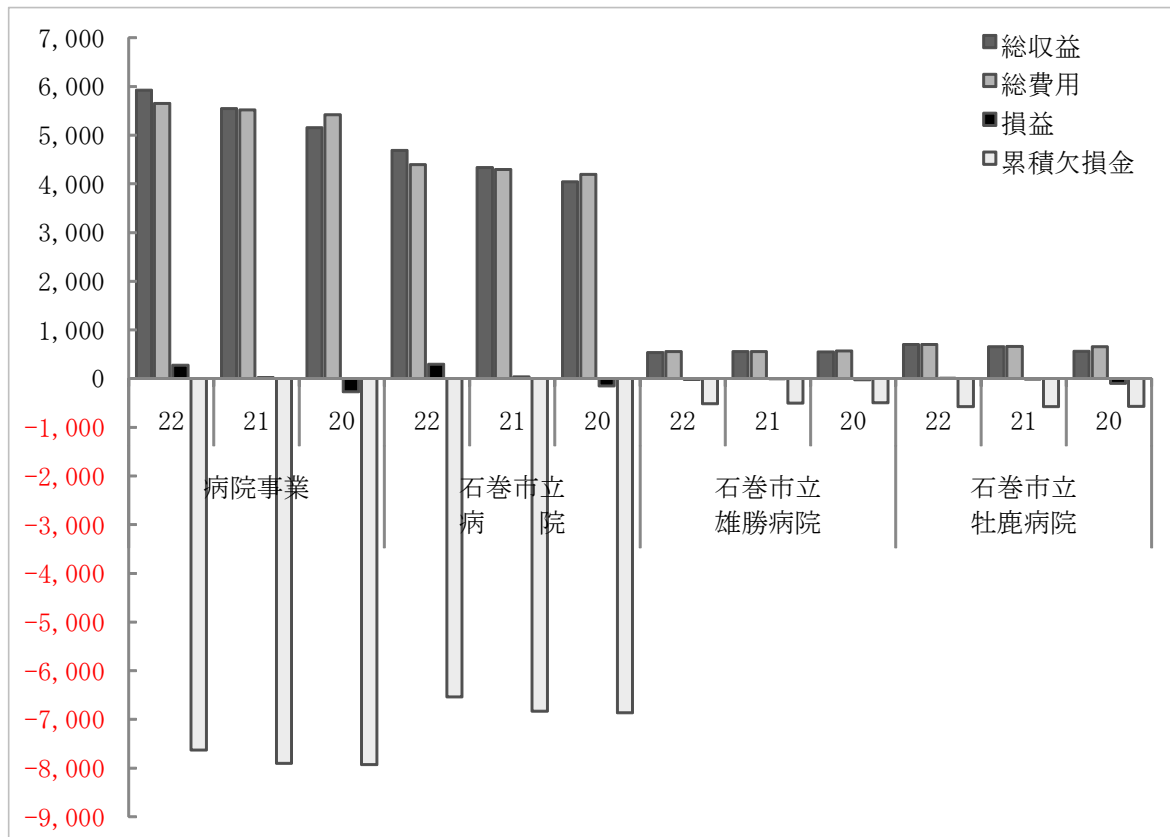
区 分	22年度		21年度		比較増減	
	金額 (A)	構成比率	金額 (B)	構成比率	(A) - (B)	増減率
医業収益	4,692,978,087	79.2	4,393,844,202	79.3	299,133,885	6.8
医業外収益	1,091,626,475	18.4	1,150,429,928	20.7	△ 58,803,453	△ 5.1
特別利益	140,000,000	2.4	0	0.0	140,000,000	皆増
収益総額	5,924,604,562	100.0	5,544,274,130	100.0	380,330,432	6.9
医業費用	5,319,896,222	94.1	5,224,826,698	94.7	95,069,524	1.8
医業外費用	260,926,801	4.6	293,736,287	5.3	△ 32,809,486	△ 11.2
特別損失	69,911,329	1.2	0	0.0	69,911,329	皆増
費用総額	5,650,734,352	100.0	5,518,562,985	100.0	132,171,367	2.4
当年度純損益	273,870,210	—	25,711,145	—	248,159,065	965.2
前年度繰越欠損金	7,904,618,410	—	7,930,329,555	—	△ 25,711,145	△ 0.3
当年度未処理欠損金	7,630,748,200	—	7,904,618,410	—	△ 273,870,210	△ 3.5

事業年度別収支状況等の推移

(単位：円)

区 分	総 収 益	総 費 用	損 益	累 積 欠 損 金	
22 年 度	病 院 事 業	5,924,604,562	5,650,734,352	273,870,210	7,630,748,200
	石 卷 市 立 病 院	4,684,705,958	4,392,155,894	292,550,064	6,535,169,952
	石 卷 市 立 雄 勝 病 院	535,000,184	554,384,778	△ 19,384,594	518,940,309
	石 卷 市 立 牡 鹿 病 院	704,898,420	704,193,680	704,740	576,637,939
21 年 度	病 院 事 業	5,544,274,130	5,518,562,985	25,711,145	7,904,618,410
	石 卷 市 立 病 院	4,336,971,981	4,297,741,363	39,230,618	6,827,720,016
	石 卷 市 立 雄 勝 病 院	553,007,024	557,853,680	△ 4,846,656	499,555,715
	石 卷 市 立 牡 鹿 病 院	654,295,125	662,967,942	△ 8,672,817	577,342,679
20 年 度	病 院 事 業	5,150,289,615	5,419,213,433	△ 268,923,818	7,930,329,555
	石 卷 市 立 病 院	4,044,526,123	4,195,819,842	△ 151,293,719	6,866,950,634
	石 卷 市 立 雄 勝 病 院	546,270,045	567,588,413	△ 21,318,368	494,709,059
	石 卷 市 立 牡 鹿 病 院	559,493,447	655,805,178	△ 96,311,731	568,669,862

(単位：百万円)



## (2) 経営分析

経営状態の分析は、次のとおりである。

病床利用率は、年延入院患者数と年延病床数を対比し、病床の利用度をみるもので、平成22年度の病床利用率は前年度と比較して8.6ポイント上昇の76.3%となっている。

患者1人当たり入院及び外来診療収入は、診療収入と患者数を対比し、病院の機能度をみるもので、平成22年度の入院診療収入は前年度と比較して3,089円増加の3万9,661円、平成22年度の外来診療収入は前年度と比較して315円増加の1万1,512円となっている。

比較経営分析表

区分	算式	22年度 (A)	21年度 (B)	20年度	比較増減 (A)－(B)
病床利用率(%)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	(注1) 76.3	67.7	66.9	8.6
外来入院患者比率(%)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	164.1	170.0	168.4	△ 5.9
患者1人当たり入院診療収入(円)	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	39,661	36,572	35,006	3,089
患者1人当たり外来診療収入(円)	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	11,512	11,197	10,112	315
入院1日平均患者数(人)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$	207.1	193.5	191.5	13.6
外来1日平均患者数(人)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$	507.8	496.1	484.3	11.7
患者100人当たり検査件数(件)	$\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	(注2) —	34.5	35.1	—
患者100人当たり放射線件数(件)	$\frac{\text{年間放射線件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	(注2) —	8.3	7.8	—
室料差額対象病床数対総病床数(%)	$\frac{\text{室料差額対象病床数}}{\text{総病床数}} \times 100$	14.0	14.3	14.3	△ 0.3
室料差額収益対総収益(%)	$\frac{\text{室料差額収益}}{\text{総収益}} \times 100$	0.6	0.6	0.6	0.0

(注1) 病床利用率の算式中「年延病床数」の算出基礎となる病床数は、22年度において牡鹿病院で15床減床されているため、21年度286床から22年度271床に変更されている。

(注2) 22年度の「患者100人当たり検査件数」及び「患者100人当たり放射線件数」は、石巻市立病院と雄勝病院において、東日本大震災によるデータ破損のため算出不能。

### (3) 財政状態

財政状態は、次のとおりである。

#### ア 資 産

資産合計は89億2,597万8,901円であり、前年度と比較して4億2,678万9,255円(4.6%)減少しているが、これは流動資産で1億543万8,548円が増加したものの、固定資産で5億3,222万7,803円が減少したためである。

固定資産の減少は、主に東日本大震災により被災した器械備品等を除却したためである。

資産の内訳は、固定資産78億5,978万640円(88.1%)、流動資産10億6,619万8,261円(11.9%)である。

#### イ 負 債

負債合計は15億8,804万6,225円であり、前年度と比較して4億7,825万6,520円(23.1%)減少しているが、これは全額流動負債が減少したためである。

負債の内訳は、固定負債7億円(7.8%)、流動負債8億8,804万6,225円(9.9%)である。

#### ウ 資 本

資本合計は73億3,793万2,676円であり、前年度と比較して5,146万7,265円(0.7%)増加しているが、これは全額剰余金が増加したためである。

資本の内訳は、資本金114億4,050万4,413円(128.2%)、剰余金マイナス41億257万1,737円(△46.0%)である。

### 比 較 貸 借 対 照 表

(単位：円・%)

区 分	22年度		21年度		比 較 増 減	
	金 額(A)	構成比率	金 額(B)	構成比率	(A)－(B)	増減率
固 定 資 産	7,859,780,640	88.1	8,392,008,443	89.7	△ 532,227,803	△ 6.3
流 動 資 産	1,066,198,261	11.9	960,759,713	10.3	105,438,548	11.0
資 産 合 計	8,925,978,901	100.0	9,352,768,156	100.0	△ 426,789,255	△ 4.6
固 定 負 債	700,000,000	7.8	700,000,000	7.5	0	0.0
流 動 負 債	888,046,225	9.9	1,366,302,745	14.6	△ 478,256,520	△ 35.0
負 債 合 計	1,588,046,225	17.8	2,066,302,745	22.1	△ 478,256,520	△ 23.1
資 本 金	11,440,504,413	128.2	11,440,504,413	122.3	0	0.0
剰 余 金	△ 4,102,571,737	△ 46.0	△ 4,154,039,002	△ 44.4	51,467,265	－
資 本 合 計	7,337,932,676	82.2	7,286,465,411	77.9	51,467,265	0.7
負債資本合計	8,925,978,901	100.0	9,352,768,156	100.0	△ 426,789,255	△ 4.6

## エ 財務分析

財政状態の分析は、次のとおりである。

### (ア) 構成比率

固定資産構成比率は、総資産に対する固定資産の占める割合で、財産構成の適正化を示し、比率が低いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 1.6 ポイント低下の 88.1%となっている。

自己資本構成比率は、総資本（負債資本合計）に対する自己資本の占める割合で、比率が高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 4.4 ポイント上昇の 22.9%となっている。

### (イ) 財務比率

固定比率は、自己資本に対する固定資産の比率で、固定資産が自己資本によって賄われるべきであるとの企業財政上の原則から、100%以下が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 101.9 ポイント低下の 384.3%となっている。

流動比率は、1 年以内に現金化できる流動資産と支払義務のある流動負債の比率で、流動性を確保するためには、200%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 49.8 ポイント上昇の 120.1%となっている。

酸性試験比率は、流動資産のうち現金預金及び容易に現金化しうる未収金などの当座資産と流動負債を対比するもので、100%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 54.0 ポイント上昇の 120.1%となっている。

現金比率は、流動負債に対する現金預金の占める割合で、20%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 30.0 ポイント上昇の 50.1%となっている。

### (ウ) 収益率

経常収支比率は、経常収益と経常費用を対比したもので、収益と費用の経常的な関連を示し、比率が高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 3.2 ポイント上昇の 103.7%となっている。

医業収支比率は、医業収益と医業費用を対比したもので、医業活動の能率を示し、比率が高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 4.1 ポイント上昇の 88.2%となっている。

### (エ) その他

不良債務比率は、低いほど良好であるとされているが、平成 22 年度においては不良債務がないため、指数は発生していない。



比較財務分析表

(単位：%)

区 分		算 式	22年度 (A)	21年度 (B)	20年度	比較増減 (A) - (B)
構 成 比 率	固定資産 構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	88.1	89.7	91.0	△ 1.6
	固定負債 構成比率	$\frac{\text{固定負債} + \text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	67.1	66.9	71.3	0.2
	自己資本 構成比率	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	22.9	18.5	11.8	4.4
財 務 比 率	固定資産対 長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$	97.8	105.1	109.4	△ 7.3
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金} + \text{剰余金}} \times 100$	384.3	486.2	769.9	△ 101.9
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	120.1	70.3	53.4	49.8
	酸性試験比率	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	120.1	66.1	50.2	54.0
	現金比率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	50.1	20.1	13.1	30.0
回 転 率	減価償却率	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	3.3	3.1	3.2	0.2
収 益 率	経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	103.7	100.5	96.6	3.2
	医業収支比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	88.2	84.1	80.7	4.1
そ の 他	利子負担率	$\frac{\text{支払利息}}{\text{企業債} + \text{他会計借入金} + \text{一時借入金}} \times 100$	2.3	2.3	2.3	0.0
	不良債務比率	$\frac{\text{不良債務}}{\text{医業収益}} \times 100$	—	9.2	17.6	—

※ 不良債務比率の算式中「不良債務」とは、流動負債の額が流動資産の額を上回る場合に発生する額をいう。  
不良債務 = 流動負債 - (流動資産 - 翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

## 4 病院別の経営状況

### (1) 石巻市立病院

#### ア 経営成績

経営収支の状況は、次のとおりである。

#### (ア) 損益の状況

収益総額 46 億 8,470 万 5,958 円に対し、費用総額 43 億 9,215 万 5,894 円で、差引き 2 億 9,255 万 64 円が当年度純利益となっており、前年度と比較して当年度純損益は 2 億 5,331 万 9,446 円増加している。

この結果、前年度繰越欠損金 68 億 2,772 万 16 円から当年度純利益を差し引いた当年度未処理欠損金は、前年度と比較して 2 億 9,255 万 64 円（4.3%）減少の 65 億 3,516 万 9,952 円である。

#### (イ) 収 益

収益総額は 46 億 8,470 万 5,958 円であり、前年度と比較して 3 億 4,773 万 3,977 円（8.0%）増加しているが、これは医業外収益で 8,732 万 2,867 円が減少したものの、医業収益で 3 億 1,505 万 6,844 円、特別利益で 1 億 2,000 万円が増加したためである。

収益の内訳は、医業収益 37 億 1,271 万 270 円（79.3%）、医業外収益 8 億 5,199 万 5,688 円（18.2%）、特別利益 1 億 2,000 万円（2.6%）である。

医業収益の内訳は、入院収益 25 億 3,746 万 2,663 円、外来収益 8 億 4,331 万 4,658 円、その他医業収益 3 億 3,193 万 2,949 円である。

医業外収益の内訳は、受取利息配当金 2 万 5,390 円、他会計負担金 5 億 9,899 万 2,361 円、他会計補助金 2 億 639 万 5,219 円、国庫補助金 654 万 5,000 円、県補助金 166 万 7,000 円、その他医業外収益 3,837 万 718 円である。

特別利益は、全額他会計補助金（不良債務解消補助金）である。

#### (ウ) 費 用

費用総額は 43 億 9,215 万 5,894 円であり、前年度と比較して 9,441 万 4,531 円（2.2%）増加しているが、これは医業外費用で 2,876 万 573 円が減少したものの、医業費用で 6,943 万 4,876 円、特別損失で 5,374 万 228 円が増加したためである。

費用の内訳は、医業費用 41 億 385 万 6,658 円（93.4%）、医業外費用 2 億 3,455 万 9,008 円（5.3%）、特別損失 5,374 万 228 円（1.2%）である。

医業費用の主なものは、給与費 21 億 2,099 万 5,973 円、材料費 8 億 7,777 万 263 円、経費 8 億 5,668 万 8,321 円である。

医業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費 1 億 4,839 万 4,783 円、雑損失 8,616 万 4,225 円である。

特別損失は全額その他特別損失であり、これは東日本大震災により使用不能となった器械備品等の滅失損である。

比 較 損 益 計 算 書

[石巻市立病院]

(単位：円・%)

区 分	2 2 年 度		2 1 年 度		比 較 増 減	
	金 額 (A)	構 成 比 率	金 額 (B)	構 成 比 率	(A) - (B)	増 減 率
医 業 収 益	3,712,710,270	79.3	3,397,653,426	78.3	315,056,844	9.3
入 院 収 益	2,537,462,663	54.2	2,255,327,892	52.0	282,134,771	12.5
外 来 収 益	843,314,658	18.0	809,812,542	18.7	33,502,116	4.1
その他医業収益	331,932,949	7.1	332,512,992	7.7	△ 580,043	△ 0.2
医 業 外 収 益	851,995,688	18.2	939,318,555	21.7	△ 87,322,867	△ 9.3
受取利息配当金	25,390	0.0	13,566	0.0	11,824	87.2
他会計負担金	598,992,361	12.8	587,036,270	13.5	11,956,091	2.0
他会計補助金	206,395,219	4.4	302,960,040	7.0	△ 96,564,821	△ 31.9
国庫補助金	6,545,000	0.1	6,456,000	0.1	89,000	1.4
県補助金	1,667,000	0.0	0	0.0	1,667,000	皆増
その他医業外収益	38,370,718	0.8	42,852,679	1.0	△ 4,481,961	△ 10.5
特 別 利 益	120,000,000	2.6	0	0.0	120,000,000	皆増
他会計補助金	120,000,000	2.6	0	0.0	120,000,000	皆増
過年度損益修正益	0	0.0	0	0.0	0	—
収 益 総 額	4,684,705,958	100.0	4,336,971,981	100.0	347,733,977	8.0
医 業 費 用	4,103,856,658	93.4	4,034,421,782	93.9	69,434,876	1.7
給 与 費	2,120,995,973	48.3	2,094,745,750	48.7	26,250,223	1.3
材 料 費	877,770,263	20.0	762,753,196	17.7	115,017,067	15.1
経 費	856,688,321	19.5	910,848,093	21.2	△ 54,159,772	△ 5.9
減 価 償 却 費	233,093,935	5.3	233,114,648	5.4	△ 20,713	△ 0.0
資 産 減 耗 費	3,301,974	0.1	20,303,068	0.5	△ 17,001,094	△ 83.7
研 究 研 修 費	12,006,192	0.3	12,657,027	0.3	△ 650,835	△ 5.1
医 業 外 費 用	234,559,008	5.3	263,319,581	6.1	△ 28,760,573	△ 10.9
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	148,394,783	3.4	163,258,774	3.8	△ 14,863,991	△ 9.1
雑 損 失	86,164,225	2.0	100,060,807	2.3	△ 13,896,582	△ 13.9
特 別 損 失	53,740,228	1.2	0	0.0	53,740,228	皆増
過年度損益修正損	0	0.0	0	0.0	0	—
その他特別損失	53,740,228	1.2	0	0.0	53,740,228	皆増
費 用 総 額	4,392,155,894	100.0	4,297,741,363	100.0	94,414,531	2.2
当 年 度 純 損 益	292,550,064	—	39,230,618	—	253,319,446	645.7
前 年 度 繰 越 欠 損 金	6,827,720,016	—	6,866,950,634	—	△ 39,230,618	△ 0.6
当 年 度 未 処 理 欠 損 金	6,535,169,952	—	6,827,720,016	—	△ 292,550,064	△ 4.3

(エ) 経営分析

経営状態の分析は、次のとおりである。

病床利用率は、前年度と比較して6.2ポイント上昇の76.3%である。

患者1人当たり入院診療収入は、前年度と比較して3,555円増加の4万6,368円で、患者1人当たり外来診療収入は、前年度と比較して527円増加の1万1,620円である。

比較経営分析表

[石巻市立病院]

区 分	算 式	22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A)－(B)
病 床 利 用 率 (%)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	76.3	70.1	6.2
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	132.6	138.6	△ 6.0
患 者 1 人 当 た り 入 院 診 療 収 入 (円)	$\frac{\text{入 院 収 益}}{\text{年延入院患者数}}$	46,368	42,813	3,555
患 者 1 人 当 た り 外 来 診 療 収 入 (円)	$\frac{\text{外 来 収 益}}{\text{年延外来患者数}}$	11,620	11,093	527
入 院 1 日 平 均 患 者 数 (人)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診 療 日 数}}$	157.3	144.3	13.0
外 来 1 日 平 均 患 者 数 (人)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診 療 日 数}}$	315.6	301.7	13.9
患 者 1 0 0 人 当 た り 検 査 件 数 (件)	$\frac{\text{年 間 検 査 件 数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	(注) —	24.4	—
患 者 1 0 0 人 当 た り 放 射 線 件 数 (件)	$\frac{\text{年 間 放 射 線 件 数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	(注) —	9.3	—
室 料 差 額 対 象 病 床 数 対 総 病 床 数 (%)	$\frac{\text{室 料 差 額 対 象 病 床 数}}{\text{総 病 床 数}} \times 100$	9.7	9.7	0.0
室 料 差 額 収 益 対 総 収 益 (%)	$\frac{\text{室 料 差 額 収 益}}{\text{総 収 益}} \times 100$	0.6	0.6	0.0

(注) 22年度の「患者100人当たり検査件数」及び「患者100人当たり放射線件数」は、東日本大震災によるデータ破損のため算出不能。

## イ 財政状態

財政状態は、次のとおりである。

### (ア) 資 産

資産合計は66億3,014万9,425円であり、前年度と比較して3億7,845万498円(5.4%)減少しているが、これは流動資産で8,731万7,490円が増加したものの、固定資産で4億6,576万7,988円が減少したためである。

固定資産の減少は、主に東日本大震災により被災した器械備品等を除却したためである。

資産の内訳は、固定資産58億4,326万5,393円(88.1%)、流動資産7億8,688万4,032円(11.9%)である。

固定資産は全額有形固定資産であり、その主なものは、建物42億9,196万3,163円、土地7億6,394万89円、医療機器及び備品5億2,469万2,202円である。

流動資産の内訳は、現金預金3億1,151万7,761円、未収金4億7,536万6,271円である。

未収金の内訳は、概ね2か月後に納入される社会保険診療報酬支払基金や国民健康保険団体連合会等の各種保険者負担分3億8,860万3円、入院及び外来患者一部負担金等6,117万9,389円、一般会計及び宮城県からの補助金等2,558万6,879円である。

### (イ) 負 債

負債合計は14億243万5,277円であり、前年度と比較して4億9,874万233円(26.2%)減少しているが、これは全額流動負債が減少したためである。

負債の内訳は、固定負債7億円(10.6%)、流動負債7億243万5,277円(10.6%)である。

固定負債は、全額営業運転資金としての一般会計からの長期借入金である。

流動負債の主なものは、預り給与等振込分等人件費、各種管理委託料、賃借料、医薬品・診療材料購入等の未払金3億8,790万9,019円、営業運転資金としての金融機関からの一時借入金3億円である。

### (ロ) 資 本

資本合計は52億2,771万4,148円であり、前年度と比較して1億2,028万9,735円(2.4%)増加しているが、これは全額剰余金が増加したためである。

資本の内訳は、資本金101億1,114万1,228円(152.5%)、剰余金マイナス48億8,342万7,080円(△73.7%)である。

資本金の内訳は、自己資本金48億2,335万301円、借入資本金52億8,779万927円(建設企業債)である。

剰余金の内訳は、資本剰余金16億5,174万2,872円、利益剰余金マイナス65億3,516万9,952円である。

利益剰余金については、平成22年度純利益2億9,255万64円から繰越欠損金68億2,772万16円を差し引いたものである。

比較貸借対照表

[石巻市立病院]

(単位：円・%)

区 分	22年度		21年度		比較増減	
	金額 (A)	構成比率	金額 (B)	構成比率	(A) - (B)	増減率
固定資産	5,843,265,393	88.1	6,309,033,381	90.0	△ 465,767,988	△ 7.4
有形固定資産	5,843,265,393	88.1	6,309,033,381	90.0	△ 465,767,988	△ 7.4
流動資産	786,884,032	11.9	699,566,542	10.0	87,317,490	12.5
現金預金	311,517,761	4.7	164,990,022	2.4	146,527,739	88.8
未収金	475,366,271	7.2	500,879,896	7.1	△ 25,513,625	△ 5.1
有価証券	0	0.0	0	0.0	0	—
貯蔵品	(注) 0	0.0	33,696,624	0.5	△ 33,696,624	皆減
前払費用	0	0.0	0	0.0	0	—
資産合計	6,630,149,425	100.0	7,008,599,923	100.0	△ 378,450,498	△ 5.4
固定負債	700,000,000	10.6	700,000,000	10.0	0	0.0
他会計借入金	700,000,000	10.6	700,000,000	10.0	0	0.0
流動負債	702,435,277	10.6	1,201,175,510	17.1	△ 498,740,233	△ 41.5
一時借入金	300,000,000	4.5	930,000,000	13.3	△ 630,000,000	△ 67.7
未払金	387,909,019	5.9	235,598,258	3.4	152,310,761	64.6
未払消費税	1,609,100	0.0	2,248,100	0.0	△ 639,000	△ 28.4
その他流動負債	12,917,158	0.2	33,329,152	0.5	△ 20,411,994	△ 61.2
負債合計	1,402,435,277	21.2	1,901,175,510	27.1	△ 498,740,233	△ 26.2
資本金	10,111,141,228	152.5	10,111,141,228	144.3	0	0.0
自己資本金	4,823,350,301	72.7	4,560,414,652	65.1	262,935,649	5.8
借入資本金	5,287,790,927	79.8	5,550,726,576	79.2	△ 262,935,649	△ 4.7
剰余金	△ 4,883,427,080	△ 73.7	△ 5,003,716,815	△ 71.4	120,289,735	—
資本剰余金	1,651,742,872	24.9	1,824,003,201	26.0	△ 172,260,329	△ 9.4
利益剰余金	△ 6,535,169,952	△ 98.6	△ 6,827,720,016	△ 97.4	292,550,064	—
資本合計	5,227,714,148	78.8	5,107,424,413	72.9	120,289,735	2.4
負債資本合計	6,630,149,425	100.0	7,008,599,923	100.0	△ 378,450,498	△ 5.4

(注) 22年度の貯蔵品は、東日本大震災により在庫管理不能となり、全額費用化したため、0となっている。

(エ) 財務分析

財政状態の分析は、次のとおりである。

a 構成比率

固定資産構成比率は、低いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 1.9 ポイント低下の 88.1%となっている。

自己資本構成比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 5.4 ポイント上昇のマイナス 0.9%となっている。

b 財務比率

固定比率は、100%以下が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 8,303.1 ポイント低下のマイナス 9,726.3%となっている。

流動比率は、200%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 53.8 ポイント上昇の 112.0%となっている。

酸性試験比率は、100%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 56.6 ポイント上昇の 112.0%となっている。

現金比率は、20%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 30.6 ポイント上昇の 44.3%となっている。

c 収益率

経常収支比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 4.3 ポイント上昇の 105.2%となっている。

医業収支比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 6.3 ポイント上昇の 90.5%となっている。

d その他

不良債務比率は、低いほど良好であるとされているが、平成 22 年度においては不良債務がないため、指数は発生していない。

なお、石巻市立病院において不良債務が発生しなかったのは、開院以来初めてのケースである。

比較財務分析表

[石巻市立病院]

(単位：%)

区 分		算 式	22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)
構 成 比 率	固定資産 構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	88.1	90.0	△ 1.9
	固定負債 構成比率	$\frac{\text{固定負債} + \text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	90.3	89.2	1.1
	自己資本 構成比率	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	△ 0.9	△ 6.3	5.4
財 務 比 率	固定資産対 長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$	98.6	108.6	△ 10.0
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金} + \text{剰余金}} \times 100$	△ 9726.3	△ 1423.2	△ 8303.1
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	112.0	58.2	53.8
	酸性試験比率	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	112.0	55.4	56.6
	現金比率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	44.3	13.7	30.6
回 転 率	減価償却率	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	4.4	4.0	0.4
収 益 率	経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	105.2	100.9	4.3
	医業収支比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	90.5	84.2	6.3
そ の 他	利子負担率	$\frac{\text{支払利息}}{\text{企業債} + \text{他会計借入金} + \text{一時借入金}} \times 100$	2.4	2.3	0.1
	不良債務比率	$\frac{\text{不良債務}}{\text{医業収益}} \times 100$	—	14.8	—

※ 不良債務比率の算式中「不良債務」とは、流動負債の額が流動資産の額を上回る場合に発生する額をいう。  
不良債務＝流動負債－（流動資産－翌年度へ繰り越される支出の財源充当額）



## (2) 石巻市立雄勝病院

### ア 経営成績

経営収支の状況は、次のとおりである。

#### (ア) 損益の状況

収益総額 5 億 3,500 万 184 円に対し、費用総額 5 億 5,438 万 4,778 円で、差引き 1,938 万 4,594 円が当年度純損失となっており、前年度と比較して当年度純損益は 1,453 万 7,938 円減少している。

この結果、当年度純損失に前年度繰越欠損金 4 億 9,955 万 5,715 円を加えた当年度未処理欠損金は、前年度と比較して 1,938 万 4,594 円 (3.9%) 増加の 5 億 1,894 万 309 円である。

#### (イ) 収 益

収益総額は 5 億 3,500 万 184 円であり、前年度と比較して 1,800 万 6,840 円 (3.3%) 減少しているが、これは医業外収益で 811 万 1,548 円が増加したものの、医業収益で 2,681 万 8,388 円が減少したためである。

収益の内訳は、医業収益 4 億 2,008 万 4,259 円 (78.5%)、医業外収益 1 億 1,491 万 5,925 円 (21.5%) である。

医業収益の内訳は、入院収益 2 億 1,923 万 6,705 円、外来収益 1 億 3,962 万 2,761 円、その他医業収益 6,122 万 4,793 円である。

医業外収益の内訳は、受取利息配当金 1 万 6,033 円、他会計負担金 8,761 万 6,895 円、他会計補助金 1,819 万 8,000 円、その他医業外収益 908 万 4,997 円である。

#### (ウ) 費 用

費用総額は 5 億 5,438 万 4,778 円であり、前年度と比較して 346 万 8,902 円 (0.6%) 減少しているが、これは特別損失で 1,617 万 1,101 円が増加したものの、医業費用で 1,720 万 215 円、医業外費用で 243 万 9,788 円が減少したためである。

費用の内訳は、医業費用 5 億 2,875 万 5,302 円 (95.4%)、医業外費用 945 万 8,375 円 (1.7%)、特別損失 1,617 万 1,101 円 (2.9%) である。

医業費用の主なものは、給与費 3 億 5,496 万 2,388 円、材料費 1 億 1,286 万 5,558 円、経費 5,547 万 5,087 円である。

医業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費 61 万 6,895 円、雑損失 884 万 1,480 円である。

特別損失は全額その他特別損失であり、これは主に東日本大震災により使用不能となった器械備品等の滅失損である。

比較損益計算書

[雄勝病院]

(単位：円・%)

区 分	22年度		21年度		比較増減	
	金額(A)	構成比率	金額(B)	構成比率	(A)-(B)	増減率
医業収益	420,084,259	78.5	446,902,647	80.8	△ 26,818,388	△ 6.0
入院収益	219,236,705	41.0	217,816,854	39.4	1,419,851	0.7
外来収益	139,622,761	26.1	163,525,082	29.6	△ 23,902,321	△ 14.6
その他医業収益	61,224,793	11.4	65,560,711	11.9	△ 4,335,918	△ 6.6
医業外収益	114,915,925	21.5	106,104,377	19.2	8,811,548	8.3
受取利息配当金	16,033	0.0	9,471	0.0	6,562	69.3
他会計負担金	87,616,895	16.4	82,380,607	14.9	5,236,288	6.4
他会計補助金	18,198,000	3.4	11,202,000	2.0	6,996,000	62.5
国庫補助金	0	0.0	0	0.0	0	—
県補助金	0	0.0	0	0.0	0	—
その他医業外収益	9,084,997	1.7	12,512,299	2.3	△ 3,427,302	△ 27.4
特別利益	0	0.0	0	0.0	0	—
他会計補助金	0	0.0	0	0.0	0	—
過年度損益修正益	0	0.0	0	0.0	0	—
収益総額	535,000,184	100.0	553,007,024	100.0	△ 18,006,840	△ 3.3
医業費用	528,755,302	95.4	545,955,517	97.9	△ 17,200,215	△ 3.2
給与費	354,962,388	64.0	356,207,617	63.9	△ 1,245,229	△ 0.3
材料費	112,865,558	20.4	124,107,876	22.2	△ 11,242,318	△ 9.1
経費	55,475,087	10.0	59,400,841	10.6	△ 3,925,754	△ 6.6
減価償却費	4,388,079	0.8	5,221,908	0.9	△ 833,829	△ 16.0
資産減耗費	992,304	0.2	903,824	0.2	88,480	9.8
研究研修費	71,886	0.0	113,451	0.0	△ 41,565	△ 36.6
医業外費用	9,458,375	1.7	11,898,163	2.1	△ 2,439,788	△ 20.5
支払利息及び 企業債取扱諸費	616,895	0.1	936,607	0.2	△ 319,712	△ 34.1
雑損失	8,841,480	1.6	10,961,556	2.0	△ 2,120,076	△ 19.3
特別損失	16,171,101	2.9	0	0.0	16,171,101	皆増
過年度損益修正損	0	0.0	0	0.0	0	—
その他特別損失	16,171,101	2.9	0	0.0	16,171,101	皆増
費用総額	554,384,778	100.0	557,853,680	100.0	△ 3,468,902	△ 0.6
当年度純損益	△ 19,384,594	—	△ 4,846,656	—	△ 14,537,938	—
前年度繰越欠損金	499,555,715	—	494,709,059	—	4,846,656	1.0
当年度未処理欠損金	518,940,309	—	499,555,715	—	19,384,594	3.9

(エ) 経営分析

経営状態の分析は、次のとおりである。

病床利用率は、前年度と比較して0.9ポイント上昇の90.1%である。

患者1人当たり入院診療収入は、前年度と比較して916円増加の1万7,642円で、患者1人当たり外来診療収入は、前年度と比較して380円減少の9,143円である。

比較経営分析表

[雄勝病院]

区 分	算 式	22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)
病 床 利 用 率 (%)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	90.1	89.2	0.9
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	122.9	131.9	△ 9.0
患 者 1 人 当 た り 入 院 診 療 収 入 (円)	$\frac{\text{入 院 収 益}}{\text{年延入院患者数}}$	17,642	16,726	916
患 者 1 人 当 た り 外 来 診 療 収 入 (円)	$\frac{\text{外 来 収 益}}{\text{年延外来患者数}}$	9,143	9,523	△ 380
入 院 1 日 平 均 患 者 数 (人)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診 療 日 数}}$	36.0	35.7	0.3
外 来 1 日 平 均 患 者 数 (人)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診 療 日 数}}$	66.4	71.0	△ 4.6
患 者 1 0 0 人 当 た り 検 査 件 数 (件)	$\frac{\text{年 間 検 査 件 数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	(注) -	22.5	-
患 者 1 0 0 人 当 た り 放 射 線 件 数 (件)	$\frac{\text{年 間 放 射 線 件 数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	(注) -	4.4	-
室 料 差 額 対 象 病 床 数 対 総 病 床 数 (%)	$\frac{\text{室 料 差 額 対 象 病 床 数}}{\text{総 病 床 数}} \times 100$	22.5	22.5	0.0
室 料 差 額 収 益 対 総 収 益 (%)	$\frac{\text{室 料 差 額 収 益}}{\text{総 収 益}} \times 100$	0.9	1.1	△ 0.2

(注) 22年度の「患者100人当たり検査件数」及び「患者100人当たり放射線件数」は、東日本大震災によるデータ破損のため算出不能。

## イ 財政状態

財政状態は、次のとおりである。

### (ア) 資 産

資産合計は4億1,967万1,004円であり、前年度と比較して4,804万9,079円(10.3%)減少しているが、これは流動資産で1,277万5,174円が増加したものの、固定資産で6,082万4,253円が減少したためである。

固定資産の減少は、主に東日本大震災により被災した器械備品等を除却したためである。

資産の内訳は、固定資産2億8,161万4,436円(67.1%)、流動資産1億3,805万6,568円(32.9%)である。

固定資産は全額有形固定資産であり、その内訳は、土地84万9,720円、建物2億8,068万4,716円、車両8万円である。

流動資産の内訳は、現金預金9,250万4,710円、未収金4,555万1,858円である。

未収金の内訳は、概ね2か月後に納入される社会保険診療報酬支払基金や国民健康保険団体連合会等の各種保険者負担分3,739万9,839円、一般会計からの補助金等615万6,500円、入院及び外来患者一部負担金等199万5,519円である。

### (イ) 負 債

負債合計は4,623万8,995円であり、前年度と比較して1,889万4,996円(69.1%)増加しているが、これは全額流動負債が増加したためである。

負債は、全額流動負債(11.0%)であり、その主なものは、預り給与等振込分等人件費、各種管理委託料、賃借料、医薬品・診療材料購入等の未払金4,550万7,955円である。

### (ウ) 資 本

資本合計は3億7,343万2,009円であり、前年度と比較して6,694万4,075円(15.2%)減少しているが、これは全額剰余金が減少したためである。

資本の内訳は、資本金6億9,923万1,729円(166.6%)、剰余金マイナス3億2,579万9,720円(△77.6%)である。

資本金の内訳は、自己資本金6億9,426万7,426円、借入資本金496万4,303円(建設企業債)である。

剰余金の内訳は、資本剰余金1億9,314万589円、利益剰余金マイナス5億1,894万309円である。

利益剰余金については、繰越欠損金4億9,955万5,715円に平成22年度純損失1,938万4,594円を合算したものである。

比較貸借対照表

[雄勝病院]

(単位：円・%)

区 分	22年度		21年度		比較増減	
	金額(A)	構成比率	金額(B)	構成比率	(A)-(B)	増減率
固定資産	281,614,436	67.1	342,438,689	73.2	△ 60,824,253	△ 17.8
有形固定資産	281,614,436	67.1	342,438,689	73.2	△ 60,824,253	△ 17.8
流動資産	138,056,568	32.9	125,281,394	26.8	12,775,174	10.2
現金預金	92,504,710	22.0	60,168,190	12.9	32,336,520	53.7
未収金	45,551,858	10.9	59,402,373	12.7	△ 13,850,515	△ 23.3
有価証券	0	0.0	0	0.0	0	—
貯蔵品	(注) 0	0.0	5,710,831	1.2	△ 5,710,831	皆減
前払費用	0	0.0	0	0.0	0	—
資産合計	419,671,004	100.0	467,720,083	100.0	△ 48,049,079	△ 10.3
固定負債	0	0.0	0	0.0	0	—
他会計借入金	0	0.0	0	0.0	0	—
流動負債	46,238,995	11.0	27,343,999	5.8	18,894,996	69.1
一時借入金	0	0.0	0	0.0	0	—
未払金	45,507,955	10.8	22,084,510	4.7	23,423,445	106.1
未払消費税	142,200	0.0	459,800	0.1	△ 317,600	△ 69.1
その他流動負債	588,840	0.1	4,799,689	1.0	△ 4,210,849	△ 87.7
負債合計	46,238,995	11.0	27,343,999	5.8	18,894,996	69.1
資本金	699,231,729	166.6	699,231,729	149.5	0	0.0
自己資本金	694,267,426	165.4	689,646,599	147.4	4,620,827	0.7
借入資本金	4,964,303	1.2	9,585,130	2.0	△ 4,620,827	△ 48.2
剰余金	△ 325,799,720	△ 77.6	△ 258,855,645	△ 55.3	△ 66,944,075	—
資本剰余金	193,140,589	46.0	237,700,070	50.8	△ 44,559,481	△ 18.7
利益剰余金	△ 518,940,309	△ 123.7	△ 496,555,715	△ 106.2	△ 22,384,594	—
資本合計	373,432,009	89.0	440,376,084	94.2	△ 66,944,075	△ 15.2
負債資本合計	419,671,004	100.0	467,720,083	100.0	△ 48,049,079	△ 10.3

(注) 22年度の貯蔵品は、東日本大震災により全て流失してしまったため、0となっている。

(エ) 財務分析

財政状態の分析は、次のとおりである。

a 構成比率

固定資産構成比率は、低いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 6.1 ポイント低下の 67.1%となっている。

自己資本構成比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 4.3 ポイント低下の 87.8%となっている。

b 財務比率

固定比率は、100%以下が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 3.1 ポイント低下の 76.4%となっている。

流動比率は、200%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 159.6 ポイント低下の 298.6%となっている。

酸性試験比率は、100%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 138.7 ポイント低下の 298.6%となっている。

現金比率は、20%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 19.9 ポイント低下の 200.1%となっている。

c 収益率

経常収支比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 0.3 ポイント上昇の 99.4%となっている。

医業収支比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 2.5 ポイント低下の 79.4%となっている。

d その他

不良債務比率は、低いほど良好であるとされているが、前年度と同様に不良債務がないため、指数は発生していない。

比較財務分析表

[雄勝病院]

(単位：%)

区分		算式	22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)
構成比率	固定資産比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	67.1	73.2	△ 6.1
	固定負債比率	$\frac{\text{固定負債} + \text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	1.2	2.0	△ 0.8
	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	87.8	92.1	△ 4.3
財務比率	固定資産対長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$	75.4	77.8	△ 2.4
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金} + \text{剰余金}} \times 100$	76.4	79.5	△ 3.1
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	298.6	458.2	△ 159.6
	酸性試験比率	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	298.6	437.3	△ 138.7
	現金比率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	200.1	220.0	△ 19.9
回転率	減価償却率	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	1.5	1.5	0.0
収益率	経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	99.4	99.1	0.3
	医業収支比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	79.4	81.9	△ 2.5
その他	利子負担率	$\frac{\text{支払利息}}{\text{企業債} + \text{他会計借入金} + \text{一時借入金}} \times 100$	12.4	9.8	2.6
	不良債務比率	$\frac{\text{不良債務}}{\text{医業収益}} \times 100$	—	—	—

※ 不良債務比率の算式中「不良債務」とは、流動負債の額が流動資産の額を上回る場合に発生する額をいう。  
 不良債務 = 流動負債 - (流動資産 - 翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

### (3) 石巻市立牡鹿病院

#### ア 経営成績

経営収支の状況は、次のとおりである。

##### (ア) 損益の状況

収益総額 7 億 489 万 8,420 円に対し、費用総額 7 億 419 万 3,680 円で、差引き 70 万 4,740 円が当年度純利益となっており、前年度と比較して当年度純損益は 937 万 7,557 円増加している。

この結果、前年度繰越欠損金 5 億 7,734 万 2,679 円から当年度純利益を差し引いた当年度未処理欠損金は、前年度と比較して 70 万 4,740 円 (0.1%) 減少の 5 億 7,663 万 7,939 円である。

##### (イ) 収 益

収益総額は 7 億 489 万 8,420 円であり、前年度と比較して 5,060 万 3,295 円 (7.7%) 増加しているが、これは医業収益で 1,089 万 5,429 円、医業外収益で 1,970 万 7,866 円、特別利益で 2,000 万円が増加したためである。

収益の内訳は、医業収益 5 億 6,018 万 3,558 円 (79.5%)、医業外収益 1 億 2,471 万 4,862 円 (17.7%)、特別利益 2,000 万円 (2.8%) である。

医業収益の内訳は、入院収益 1 億 622 万 4,985 円、外来収益 3 億 8,053 万 5,531 円、その他医業収益 7,342 万 3,042 円である。

医業外収益の内訳は、受取利息配当金 3,512 円、他会計負担金 4,648 万円、他会計補助金 6,664 万 4,000 円、その他医業外収益 1,158 万 7,350 円である。

特別利益は、全額他会計補助金 (不良債務解消補助金) である。

##### (ウ) 費 用

費用総額は 7 億 419 万 3,680 円であり、前年度と比較して 4,122 万 5,738 円 (6.2%) 増加しているが、これは医業外費用で 160 万 9,125 円が減少したものの、医業費用で 4,283 万 4,863 円が増加したためである。

費用の内訳は、医業費用 6 億 8,728 万 4,262 円 (97.6%)、医業外費用 1,690 万 9,418 円 (2.4%) である。

医業費用の主なものは、給与費 3 億 2,780 万 2,304 円、材料費 2 億 7,176 万 2,085 円、経費 8,369 万 6,595 円である。

医業外費用の内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費 2 万 136 円、雑損失 1,688 万 9,282 円である。



比較損益計算書

[牡鹿病院]

(単位：円・%)

区 分	22年度		21年度		比較増減	
	金額 (A)	構成比率	金額 (B)	構成比率	(A) - (B)	増減率
医業収益	560,183,558	79.5	549,288,129	84.0	10,895,429	2.0
入院収益	106,224,985	15.1	109,662,238	16.8	△ 3,437,253	△ 3.1
外来収益	380,535,531	54.0	370,890,114	56.7	9,645,417	2.6
その他医業収益	73,423,042	10.4	68,735,777	10.5	4,687,265	6.8
医業外収益	124,714,862	17.7	105,006,996	16.0	19,707,866	18.8
受取利息配当金	3,512	0.0	3,800	0.0	△ 288	△ 7.6
他会計負担金	46,480,000	6.6	37,870,000	5.8	8,610,000	22.7
他会計補助金	66,644,000	9.5	59,488,000	9.1	7,156,000	12.0
国庫補助金	0	0.0	0	0.0	0	—
県補助金	0	0.0	0	0.0	0	—
その他医業外収益	11,587,350	1.6	7,645,196	1.2	3,942,154	51.6
特別利益	20,000,000	2.8	0	0.0	20,000,000	皆増
他会計補助金	20,000,000	2.8	0	0.0	20,000,000	皆増
過年度損益修正益	0	0.0	0	0.0	0	—
収益総額	704,898,420	100.0	654,295,125	100.0	50,603,295	7.7
医業費用	687,284,262	97.6	644,449,399	97.2	42,834,863	6.6
給与費	327,802,304	46.6	316,391,111	47.7	11,411,193	3.6
材料費	271,762,085	38.6	235,185,120	35.5	36,576,965	15.6
経費	83,696,595	11.9	87,949,741	13.3	△ 4,253,146	△ 4.8
減価償却費	1,441,977	0.2	2,455,917	0.4	△ 1,013,940	△ 41.3
資産減耗費	1,427,430	0.2	1,910,375	0.3	△ 482,945	△ 25.3
研究研修費	1,153,871	0.2	557,135	0.1	596,736	107.1
医業外費用	16,909,418	2.4	18,518,543	2.8	△ 1,609,125	△ 8.7
支払利息及び 企業債取扱諸費	20,136	0.0	330,821	0.0	△ 310,685	△ 93.9
雑損失	16,889,282	2.4	18,187,722	2.7	△ 1,298,440	△ 7.1
特別損失	0	0.0	0	0.0	0	—
過年度損益修正損	0	0.0	0	0.0	0	—
その他特別損失	0	0.0	0	0.0	0	—
費用総額	704,193,680	100.0	662,967,942	100.0	41,225,738	6.2
当年度純損益	704,740	—	△ 8,672,817	—	9,377,557	—
前年度繰越欠損金	577,342,679	—	568,669,862	—	8,672,817	1.5
当年度未処理欠損金	576,637,939	—	577,342,679	—	△ 704,740	△ 0.1

(エ) 経営分析

経営状態の分析は、次のとおりである。

病床利用率は、前年度と比較して21.5ポイント上昇の55.2%である。

患者1人当たり入院診療収入は、前年度と比較して1,179円減少の2万1,106円で、患者1人当たり外来診療収入は、前年度と比較して26円増加の1万2,438円である。

比較経営分析表

[牡鹿病院]

区 分	算 式	22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)
病 床 利 用 率 (%)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	(注) 55.2	33.7	21.5
外 来 入 院 患 者 比 率 (%)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	607.9	607.2	0.7
患 者 1 人 当 た り 入 院 診 療 収 入 (円)	$\frac{\text{入 院 収 益}}{\text{年延入院患者数}}$	21,106	22,285	△ 1,179
患 者 1 人 当 た り 外 来 診 療 収 入 (円)	$\frac{\text{外 来 収 益}}{\text{年延外来患者数}}$	12,438	12,412	26
入 院 1 日 平 均 患 者 数 (人)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診 療 日 数}}$	13.8	13.5	0.3
外 来 1 日 平 均 患 者 数 (人)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診 療 日 数}}$	125.9	123.5	2.4
患 者 1 0 0 人 当 た り 検 査 件 数 (件)	$\frac{\text{年 間 検 査 件 数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	62.7	81.4	△ 18.7
患 者 1 0 0 人 当 た り 放 射 線 件 数 (件)	$\frac{\text{年 間 放 射 線 件 数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$	10.2	8.3	1.9
室 料 差 額 対 象 病 床 数 対 総 病 床 数 (%)	$\frac{\text{室 料 差 額 対 象 病 床 数}}{\text{総 病 床 数}} \times 100$	36.0	30.0	6.0
室 料 差 額 収 益 対 総 収 益 (%)	$\frac{\text{室 料 差 額 収 益}}{\text{総 収 益}} \times 100$	0.3	0.4	△ 0.1

(注) 病床利用率の算式中「年延病床数」の算出基礎となる病床数は、21年度40床から22年度25床に減床されている。

## イ 財政状態

財政状態は、次のとおりである。

### (ア) 資 産

資産合計は 18 億 7,615 万 8,472 円であり、前年度と比較して 28 万 9,678 円 (0.0%) 減少しているが、これは流動資産で 534 万 5,884 円が増加したものの、固定資産で 563 万 5,562 円が減少したためである。

資産の内訳は、固定資産 17 億 3,490 万 811 円 (92.5%)、流動資産 1 億 4,125 万 7,661 円 (7.5%) である。

固定資産は全額有形固定資産であり、その主なものは、建物 13 億 8,478 万 5,150 円、医療機器及び備品 2 億 7,389 万 7,110 円、土地 3,877 万 6,451 円である。

流動資産の内訳は、現金預金 4,123 万 8,772 円、未収金 1 億 1 万 8,889 円である。

未収金の内訳は、概ね 2 か月後に納入される社会保険診療報酬支払基金や国民健康保険団体連合会等の各種保険者負担分 7,199 万 5,830 円、不良債務解消補助金等 2,340 万 2,000 円、入院及び外来患者一部負担金等 462 万 1,059 円である。

### (イ) 負 債

負債合計は 1 億 3,937 万 1,953 円であり、前年度と比較して 158 万 8,717 円 (1.2%) 増加しているが、これは全額流動負債が増加したためである。

負債は全額流動負債 (7.4%) であり、その主なものは、預り給与等振込分等 person 件費、医薬品・診療材料購入、各種管理委託料及び賃借料等の未払金 7,734 万 1,658 円、営業運転資金としての金融機関からの一時借入金 6,000 万円である。

### (ウ) 資 本

資本合計は 17 億 3,678 万 6,519 円であり、前年度と比較して 187 万 8,395 円 (0.1%) 減少しているが、これは全額剰余金が減少したためである。

資本の内訳は、資本金 6 億 3,013 万 1,456 円 (33.6%)、剰余金 11 億 665 万 5,063 円 (59.0%) である。

資本金は、全額自己資本金である。

剰余金の内訳は、資本剰余金 16 億 8,329 万 3,002 円、利益剰余金マイナス 5 億 7,663 万 7,939 円である。

利益剰余金については、平成 22 年度純利益 70 万 4,740 円から繰越欠損金 5 億 7,734 万 2,679 円を差し引いたものである。

比較貸借対照表

[牡鹿病院]

(単位：円・%)

区 分	22年度		21年度		比較増減	
	金額 (A)	構成比率	金額 (B)	構成比率	(A) - (B)	増減率
固定資産	1,734,900,811	92.5	1,740,536,373	92.8	△ 5,635,562	△ 0.3
有形固定資産	1,734,900,811	92.5	1,740,536,373	92.8	△ 5,635,562	△ 0.3
流動資産	141,257,661	7.5	135,911,777	7.2	5,345,884	3.9
現金預金	41,238,772	2.2	50,120,292	2.7	△ 8,881,520	△ 17.7
未収金	100,018,889	5.3	68,144,056	3.6	31,874,833	46.8
有価証券	0	0.0	0	0.0	0	—
貯蔵品	(注) 0	0.0	17,647,429	0.9	△ 17,647,429	皆減
前払費用	0	0.0	0	0.0	0	—
資産合計	1,876,158,472	100.0	1,876,448,150	100.0	△ 289,678	△ 0.0
固定負債	0	0.0	0	0.0	0	—
他会計借入金	0	0.0	0	0.0	0	—
流動負債	139,371,953	7.4	137,783,236	7.3	1,588,717	1.2
一時借入金	60,000,000	3.2	100,000,000	5.3	△ 40,000,000	△ 40.0
未払金	77,341,658	4.1	34,706,480	1.8	42,635,178	122.8
未払消費税	31,700	0.0	379,200	0.0	△ 347,500	△ 91.6
その他流動負債	1,998,595	0.1	2,697,556	0.1	△ 698,961	△ 25.9
負債合計	139,371,953	7.4	137,783,236	7.3	1,588,717	1.2
資本金	630,131,456	33.6	630,131,456	33.6	0	0.0
自己資本金	630,131,456	33.6	630,131,456	33.6	0	0.0
借入資本金	0	0.0	0	0.0	0	—
剰余金	1,106,655,063	59.0	1,108,533,458	59.1	△ 1,878,395	△ 0.2
資本剰余金	1,683,293,002	89.7	1,685,876,137	89.8	△ 2,583,135	△ 0.2
利益剰余金	△ 576,637,939	△ 30.7	△ 577,342,679	△ 30.8	704,740	—
資本合計	1,736,786,519	92.6	1,738,664,914	92.7	△ 1,878,395	△ 0.1
負債資本合計	1,876,158,472	100.0	1,876,448,150	100.0	△ 289,678	△ 0.0

(注) 22年度の貯蔵品は、東日本大震災により在庫管理不能となり、全額費用化したため、0となっている。

(エ) 財務分析

財政状態の分析は、次のとおりである。

a 構成比率

固定資産構成比率は、低いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 0.3 ポイント低下の 92.5%となっている。

自己資本構成比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 0.1 ポイント低下の 92.6%となっている。

b 財務比率

固定比率は、100%以下が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 0.2 ポイント低下の 99.9%となっている。

流動比率は、200%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 2.8 ポイント上昇の 101.4%となっている。

酸性試験比率は、100%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 15.6 ポイント上昇の 101.4%となっている。

現金比率は、20%以上が望ましいとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 6.8 ポイント低下の 29.6%となっている。

c 収益率

経常収支比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 1.4 ポイント低下の 97.3%となっている。

医業収支比率は、高いほど良好であるとされており、平成 22 年度の比率は前年度と比較して 3.7 ポイント低下の 81.5%となっている。

d その他

不良債務比率は、低いほど良好であるとされているが、平成 22 年度においては不良債務がないため、指数は発生していない。

比較財務分析表

[牡鹿病院]

(単位：%)

区分		算式	22年度 (A)	21年度 (B)	比較増減 (A) - (B)
構成比率	固定資産比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	92.5	92.8	△ 0.3
	固定負債比率	$\frac{\text{固定負債} + \text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	0.0	0.0	0.0
	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	92.6	92.7	△ 0.1
財務比率	固定資産対長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$	99.9	100.1	△ 0.2
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金} + \text{剰余金}} \times 100$	99.9	100.1	△ 0.2
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	101.4	98.6	2.8
	酸性試験比率	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$	101.4	85.8	15.6
	現金比率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	29.6	36.4	△ 6.8
回転率	減価償却率	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	0.1	0.1	0.0
収益率	経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	97.3	98.7	△ 1.4
	医業収支比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	81.5	85.2	△ 3.7
その他	利子負担率	$\frac{\text{支払利息}}{\text{企業債} + \text{他会計借入金} + \text{一時借入金}} \times 100$	0.0	0.3	△ 0.3
	不良債務比率	$\frac{\text{不良債務}}{\text{医業収益}} \times 100$	-	0.3	-

※ 不良債務比率の算式中「不良債務」とは、流動負債の額が流動資産の額を上回る場合に発生する額をいう。  
 不良債務 = 流動負債 - (流動資産 - 翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

## む す び

### 1 業務実績と経営収支の状況

平成 22 年度病院事業の業務実績は、病床数が予定量と同床の 271 床で、年延入院患者数は 7 万 2,184 人で予定量を 2,743 人、年延外来患者数は 11 万 8,442 人で予定量を 6,574 人それぞれ下回っている。これは東日本大震災により診療日数が減少したことなどによるものであり、1 日当たりの患者数で前年度と比較すると、入院で 13.6 人増の 207.1 人、外来で 11.7 人増の 507.8 人となっている。

経営収支の状況は、収益総額 59 億 2,460 万 4,562 円に対し、費用総額 56 億 5,073 万 4,352 円で差引き 2 億 7,387 万 210 円の当年度純利益が生じている。このため、前年度繰越欠損金 79 億 461 万 8,410 円から当年度純利益を差し引いた当年度未処理欠損金は、76 億 3,074 万 8,200 円と減少している。

### 2 財政状態の分析

財政状態を分析すると、経常収支比率は前年度と比較して 3.2 ポイント上昇の 103.7%、医業収支比率は前年度と比較して 4.1 ポイント上昇の 88.2%となっている。また、不良債務については発生していないため、指数も発生していない。

特に、石巻市立病院では、経常収支比率が前年度と比較して 4.3 ポイント、医業収支比率が 6.3 ポイントそれぞれ上昇し、収益率が向上したほか、開院してから初めて不良債務の発生がみられず、病院経営の健全化が図られている。

以上のように、経営面では、石巻市立病院が牽引車となり、2 期連続の黒字決算となったが、黒字幅についても、平成 22 年 4 月からの診療報酬の改定や入院診療件数の増加もあり、前年度純利益 2,571 万 1,145 円に比べ、2 億 4,815 万 9,065 円増の 2 億 7,387 万 210 円となっており、これまでの赤字体質からの脱却が図られたところである。さらに、長年の懸案であった不良債務の解消も図られており、今後の病院経営に向け、大きな転換期になるものと期待されていたところである。

### 3 東日本大震災

このような中、平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、状況は一変してしまった。

石巻市立 3 病院のうち石巻市立病院と石巻市立雄勝病院は津波に襲われ、病院としての機能が完全に奪われてしまった。

石巻市立雄勝病院においては、屋上まで津波が達し、患者 40 人、職員 22 人が死亡したり行方不明になってしまった。また、石巻市立病院においては、建物管理に従事していた委託業者の職員が死亡したほか、震災当日は宿直明けで非番のため自宅に居たが、地震発生を受け、直ちに病院に駆け付ける途中で津波に襲われ行方不明となってしまった看護師もおり、誠に痛惜の念に堪えない。

1 階が壊滅的状況となってしまった石巻市立病院では、MR I 等の主要な医療機器を中心に 3 億 388 万 6,257 円の固定資産(取得価格 13 億 2,329 万 6,468 円)を除却し、石巻市立雄勝病院では全ての医療機器と構築物等 6,392 万 6,251 円(取得価格 2 億 1,747 万 7,153 円)を除却したほか、貯蔵品 571 万 831 円が滅失してしまった。また、これに伴う資産の滅失損として特別損失 6,991 万 1,329 円を計上するとともに、3 億 361 万 2,010 円の資本剰余金を取り崩し、損失を補てんすることになったところである。

#### 4 今後に望むこと

現在のところは、石巻市立牡鹿病院においては、従来どおりの診療体制を維持しているものの、石巻市立病院においては、仮設診療所での外来患者のみの診療に制限せざるを得ない状況であり、石巻市立雄勝病院においては閉鎖したままの状況が続いている。

震災後、石巻医療圏をはじめとする沿岸部では医療機能の大幅な低下が続いている状況であるが、石巻市立病院や石巻市立雄勝病院がこれまで担ってきた役割や、市民からの支持や期待を考えると、今後は一日も早く市民が安心して暮らせる医療体制の実現に向け、病院局を中心に市の総力を挙げて、地域医療の復興に取り組まれるよう強く望むものである。





# 参 考 資 料

ページ

No. 1	病院別損益計算書	-----	38
No. 2	病院別貸借対照表	-----	39
No. 3	病院別経営分析表	-----	40
No. 4	病院別財務分析表	-----	41

## No. 1 病院別損益計算書

(単位：円)

区 分	病院事業	石巻市立病院	石巻市立病院 石巻市立病院 石巻市立病院	石巻市立病院 石巻市立病院 石巻市立病院
医業収益	4,692,978,087	3,712,710,270	420,084,259	560,183,558
入院収益	2,862,924,353	2,537,462,663	219,236,705	106,224,985
外来収益	1,363,472,950	843,314,658	139,622,761	380,535,531
その他医業収益	466,580,784	331,932,949	61,224,793	73,423,042
医業外収益	1,091,626,475	851,995,688	114,915,925	124,714,862
受取利息配当金	44,935	25,390	16,033	3,512
他会計負担金	733,089,256	598,992,361	87,616,895	46,480,000
他会計補助金	291,237,219	206,395,219	18,198,000	66,644,000
国庫補助金	6,545,000	6,545,000	0	0
県補助金	1,667,000	1,667,000	0	0
その他医業外収益	59,043,065	38,370,718	9,084,997	11,587,350
特別利益	140,000,000	120,000,000	0	20,000,000
他会計補助金	140,000,000	120,000,000	0	20,000,000
過年度損益修正益	0	0	0	0
収益総額	5,924,604,562	4,684,705,958	535,000,184	704,898,420
医業費用	5,319,896,222	4,103,856,658	528,755,302	687,284,262
給与費	2,803,760,665	2,120,995,973	354,962,388	327,802,304
材料費	1,262,397,906	877,770,263	112,865,558	271,762,085
経費	995,860,003	856,688,321	55,475,087	83,696,595
減価償却費	238,923,991	233,093,935	4,388,079	1,441,977
資産減耗費	5,721,708	3,301,974	992,304	1,427,430
研究研修費	13,231,949	12,006,192	71,886	1,153,871
医業外費用	260,926,801	234,559,008	9,458,375	16,909,418
支払利息及び 企業債取扱諸費	149,031,814	148,394,783	616,895	20,136
雑損失	111,894,987	86,164,225	8,841,480	16,889,282
特別損失	69,911,329	53,740,228	16,171,101	0
過年度損益修正損	0	0	0	0
その他特別損失	69,911,329	53,740,228	16,171,101	0
費用総額	5,650,734,352	4,392,155,894	554,384,778	704,193,680
当年度純損益	273,870,210	292,550,064	△ 19,384,594	704,740
前年度繰越欠損金	7,904,618,410	6,827,720,016	499,555,715	577,342,679
当年度未処理欠損金	7,630,748,200	6,535,169,952	518,940,309	576,637,939

## No. 2 病院別貸借対照表

(単位：円)

区 分	病院事業	石巻市立病院	石巻市立 雄勝病院	石巻市立 牡鹿病院
固 定 資 産	7,859,780,640	5,843,265,393	281,614,436	1,734,900,811
有形固定資産	7,859,780,640	5,843,265,393	281,614,436	1,734,900,811
流 動 資 産	1,066,198,261	786,884,032	138,056,568	141,257,661
現金預金	445,261,243	311,517,761	92,504,710	41,238,772
未 収 金	620,937,018	475,366,271	45,551,858	100,018,889
有 価 証 券	0	0	0	0
貯 蔵 品 (注)	0	0	0	0
前 払 費 用	0	0	0	0
資 産 合 計	8,925,978,901	6,630,149,425	419,671,004	1,876,158,472
固 定 負 債	700,000,000	700,000,000	0	0
他会計借入金	700,000,000	700,000,000	0	0
流 動 負 債	888,046,225	702,435,277	46,238,995	139,371,953
一時借入金	360,000,000	300,000,000	0	60,000,000
未 払 金	510,758,632	387,909,019	45,507,955	77,341,658
未 払 消 費 税	1,783,000	1,609,100	142,200	31,700
その他流動負債	15,504,593	12,917,158	588,840	1,998,595
負 債 合 計	1,588,046,225	1,402,435,277	46,238,995	139,371,953
資 本 金	11,440,504,413	10,111,141,228	699,231,729	630,131,456
自己資本金	6,147,749,183	4,823,350,301	694,267,426	630,131,456
借入資本金	5,292,755,230	5,287,790,927	4,964,303	0
剰 余 金	△ 4,102,571,737	△ 4,883,427,080	△ 325,799,720	1,106,655,063
資本剰余金	3,528,176,463	1,651,742,872	193,140,589	1,683,293,002
利益剰余金	△ 7,630,748,200	△ 6,535,169,952	△ 518,940,309	△ 576,637,939
資 本 合 計	7,337,932,676	5,227,714,148	373,432,009	1,736,786,519
負 債 資 本 合 計	8,925,978,901	6,630,149,425	419,671,004	1,876,158,472

(注) 22年度の貯蔵品は、東日本大震災により、石巻市立病院と牡鹿病院においては在庫管理不能となり、全額費用化したため、雄勝病院においては全て流失してしまったため、0となっている。

### No. 3 病院別経営分析表

区分	病院事業	石巻市立病院	石巻市立 雄勝病院	石巻市立 牡鹿病院	算式
病床利用率 (%)	76.3	76.3	90.1	55.2	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$
外来者入院比率 (%)	164.1	132.6	122.9	607.9	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$
患者1人当たり 入院診療収入 (円)	39,661	46,368	17,642	21,106	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$
患者1人当たり 外来診療収入 (円)	11,512	11,620	9,143	12,438	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$
入院1日 平均患者数 (人)	207.1	157.3	36.0	13.8	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$
外来1日 平均患者数 (人)	507.8	315.6	66.4	125.9	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$
患者100人 当たり 検査件数 (件)	(注) —	—	—	62.7	$\frac{\text{年間検査件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$
患者100人 当たり 放射線件数 (件)	(注) —	—	—	10.2	$\frac{\text{年間放射線件数}}{\text{年延入院外来患者数}} \times 100$
室料差額 対象病床数 対総病床数 (%)	14.0	9.7	22.5	36.0	$\frac{\text{室料差額対象病床数}}{\text{総病床数}} \times 100$

(注) 「患者100人当たり検査件数」及び「患者100人当たり放射線件数」は、石巻市立病院と雄勝病院において、東日本大震災によるデータ破損のため算出不能。

## No. 4 病院別財務分析表

(単位：%)

区 分	病院事業	石巻市立病院	石巻市立 雄勝病院	石巻市立 牡鹿病院	算 式	
構 成 比 率	固定資産 構成比率	88.1	88.1	67.1	92.5	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$
	固定負債 構成比率	67.1	90.3	1.2	0.0	$\frac{\text{固定負債} + \text{借入資本金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
	自己資本 構成比率	22.9	△ 0.9	87.8	92.6	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
財 務 比 率	固定資産対 長期資本比率	97.8	98.6	75.4	99.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債}} \times 100$
	固定比率	384.3	△ 9726.3	76.4	99.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本金} + \text{剰余金}} \times 100$
	流動比率	120.1	112.0	298.6	101.4	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
	酸性試験比率	120.1	112.0	298.6	101.4	$\frac{\text{現金預金} + \text{未収金}}{\text{流動負債}} \times 100$
	現金比率	50.1	44.3	200.1	29.6	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
回 転 率	減価償却率	3.3	4.4	1.5	0.1	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$
収 益 率	経常収支比率	103.7	105.2	99.4	97.3	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
	医業収支比率	88.2	90.5	79.4	81.5	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$
そ の 他	利子負担率	2.3	2.4	12.4	0.0	$\frac{\text{支払利息}}{\text{企業債} + \text{他会計借入金} + \text{一時借入金}} \times 100$
	不良債務比率	—	—	—	—	$\frac{\text{不良債務}}{\text{医業収益}} \times 100$

※ 不良債務比率の算式中「不良債務」とは、流動負債の額が流動資産の額を上回る場合に発生する額をいう。  
不良債務＝流動負債－（流動資産－翌年度へ繰り越される支出の財源充当額）